

## 平成22年度決算報告

学校法人純真学園の平成22年度決算は、平成23年5月23日の理事会において承認された後、評議員会にて報告されました。

平成22年度の学校法人純真学園の決算について、学校法人会計基準で作成を義務づけられている(※)「資金収支計算書」「消費収支計算書」「貸借対照表」の概要について説明致します。

尚、この計算書等は、学校法人純真学園が設置する東和大学、純真短期大学、埼玉純真短期大学、純真高等学校、健康科学研究所及び補助活動事業(食堂など)を総合計した計算書です。

### ※資金収支計算書の目的(学校法人会計基準第6条)

毎会計年度、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするために行なうものとする。

### ※消費収支計算書の目的( 同 第15条 )

毎会計年度、当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにするために行なうものとする。

## 1. 資金収支計算書について (表1)

当年度の資金収入は、「学生生徒等納付金収入」以下「雑収入」までの合計が16億8,222万円(前年度比4億9,324万円増)となり、「前受金収入」以下「資金収入調整勘定」までの計に前年度繰越支払資金を加えた収入総額は、45億7,942万円となりました。

一方これに対する資金支出の総額は、「人件費支出」から「資金支出調整勘定」までが25億2,415万円(前年度比1億134万円増)で、収入総額より差し引いた20億5,526万円が翌年度繰越支払資金となりました。期首に比べ6,357万円支払資金が減少しました。

## 2. 消費収支計算書について（表2）

### 収入の部

帰属収入は12億7,081万円となりました。前年度に比べ1億6,612万円の増加で、内訳では学生生徒数の減少で学生生徒等納付金は5,556万円減少しました。補助金は9,333万円増加いたしました。

基本金組入額は、前年度までは純額にて組入れておりましたが当年度より総額にて組入れることとなったため、予算値875万円に対し6億6,753万円の組入額となりました。

（基本金取崩額も同様に、予算値3億1,012万円に対し14億8,852万円の取崩額となりました。）

帰属収入から基本金組入額を差し引いた消費収入は6億328万円で、予算に対し5億9,881万円と大きく減少いたしました。

### 支出の部

人件費については、予算を2,550万円上回る13億4,287万円となりました。前年度と比べると7,811万円の増加となっています。東和大学の教員退職に係わる退職金等の増加が主な要因です。

消費支出の合計は、予算を4億9,140万円上回る29億6,350万円となりました。予算との差異は、東和大学旧学生寮の売却に伴う売却損が大きな要因です。

消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は、23億6,021万円の支出超過となり、前年度繰越消費支出超過額と合わせた額から基本金取崩額を差し引いた翌年度繰越消費支出超過額は、68億5,860万円となりました。

## 3. 貸借対照表について（表3）

上記、資金収支及び消費収支の結果、平成22年度末における学校法人純真学園の財産状況を示す貸借対照表は表3のとおりです。

資産の合計額は前年度に比べ14億5,976万円減少し、163億9,257万円となりました。これに対して負債の合計額は、前年度に比べ2億3,293万円増加し13億4,524万円でした。

資産については、東和大学旧学生寮の売却に伴う土地・建物の減少、有価証券の償還や現預金の減少など、負債については、純真学園大学入学者の学生生徒等納付金の前受金額の増加が当年度の主な要因です。

資産合計から負債合計を引いた自己資産額は、150億4,733万円で16億9,269万円減少しました。また基本金は、東和大学の旧学生寮(約4億円)の売却及び教育研究用機器備品(約3億円)の除却を主な要因として8億2,133万円の減少となりました。